

赤林伸一

新編の建築実用マニュアル

□10□

「風通しの良い家」とか「陽（ひ）当たり良好」は不動産広告の常とう句ですが、通風性能や採光性能は残念ながら断熱・気密性能のように一つの数値で評価する方法がありません。

しかし、平面プランや窓の配置等を専門家が診断すれば大体の様子は把握することができ

ます。
風通しを良くする方法はさまざまありますが、基本的には風の入り口と出口の両方を適切な場所に設けることです。最も有効なのは屋根の北側に風の出口となる天窓をつけ、南側に風の入り口となる大きな開口を設ける

日照と日射

南側の窓にひさしを

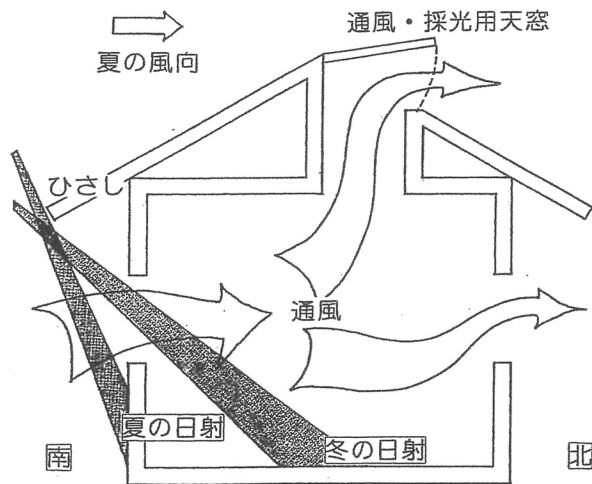
都市の過密な住宅で通風を有効に利用するためにはさまざまな困難があります。窓を開放しても「のぞかれないこと」、「夜間でも防犯上安全なこと」、「少なくとも建物高さの三倍程度隣戸から離れていること」等で

「夜間でも防犯上安全なこと」、「少なくとも建物高さの三倍程度隣戸から離れていること」等で三坪程度の敷地には百坪程度の住宅を建

が通り抜け大変快適だったのですが、窓を開けておくとほごりが床にたまってしまい、結局窓を閉め切って冷房することに なってしまいました。通風も快適ですが、いったん冷房に慣れてしまうと窓を開けることに抵抗があるようです。

てれば通風を有効に利用することができず、都市住宅ではほとんど不可能であるといえます。つまり、通風で室内の環境を快適に保つのは冷房で温度を下げるよりもずっとせいたく方法になってしまったのです。

日照は保健衛生上人間に欠かせないものですし、殺菌効果もあります。日照を干すことは日射によって乾燥させるのと同



逆に夏には日照時間が長いので窓の配置に配慮しないと、大変なことになります。特に屋根につけた天窓は鉛直な壁面の約三倍の日射を受けますから注意が必要です。南側の屋根面に天窓をつける

と大量の日射が侵入してきて夏に大変暑い住宅になります。太陽の高度が夏は高く冬は低いことを利用して、南側の窓には冬には日射が入り夏には日射を遮るようなひさしをつけることができます。西側の窓は西日が低い高度から入ってきますからひさしで日射を防ぐことも困難です。窓は断熱・気密性能の点から不利になりやすい部分ですから、その配置や窓枠、ガラスの選定に当たっては十分な注意が必要です。
(新潟大学工学部助教 授)